

## 令和6年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立明保小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和6年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

### 【調査の概要】

#### 1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

#### 2 調査期日

令和6年4月18日(木)

#### 3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問調査）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問調査）

#### 4 本校の実施状況

第4学年	国語	83人	算数	83人	理科	83人
------	----	-----	----	-----	----	-----

第5学年	国語	105人	算数	105人	理科	106人
------	----	------	----	------	----	------

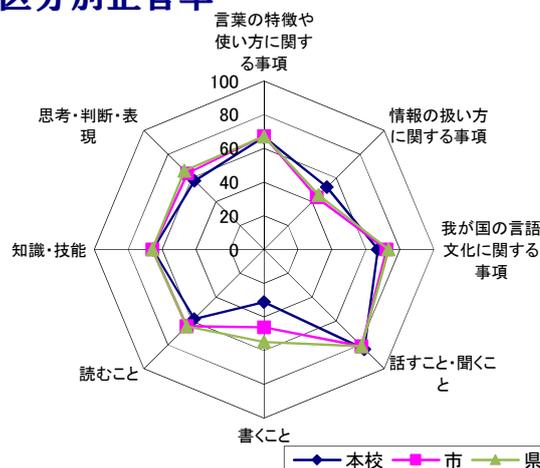
#### 5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、  
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

# 宇都宮市立明保小学校 第4学年【国語】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	66.8	67.4	67.1
	情報の扱いに関する事項	52.4	43.8	45.7
	我が国の言語文化に関する事項	67.1	72.1	73.4
	話すこと・聞くこと	83.5	81.2	81.2
	書くこと	31.1	46.2	54.9
	読むこと	58.2	64.3	64.5
観点	知識・技能	65.5	65.7	65.7
	思考・判断・表現	57.8	64.0	66.3



## ★指導の工夫と改善

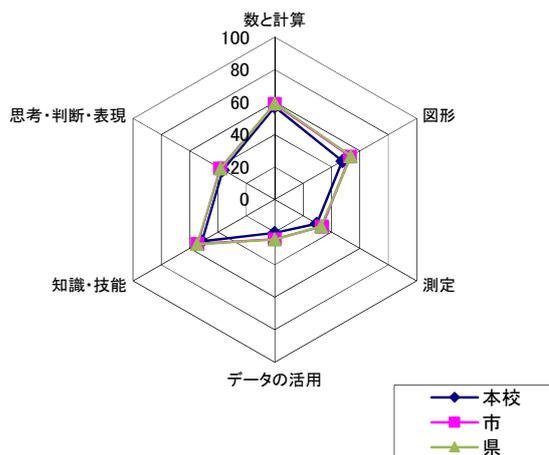
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	<p>平均正答率は、市の平均よりやや低い。</p> <p>○ローマ字の読み方についての問題がよくできている。日頃から1人1台端末を活用し、ローマ字に慣れ親しんでいる成果であると考えられる。</p> <p>●漢字の読み書きや対義語の理解に課題が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>漢字ドリルやAIDドリル等を活用し、漢字の読み書きの練習を繰り返し行い、定着を図る。</li> <li>漢字を学習する際は、類語や対義語なども合わせて関連付けて覚えられるように指導する。</li> <li>引き続き1人1台端末を活用する機会を多く設け、ローマ字の読み書きの定着を図る。</li> </ul>
情報の扱いに関する事項	<p>平均正答率は、市の平均より高い。</p> <p>○「国語辞典の使い方を理解している」についての設問では市の平均正答率を大きく上回った。</p> <p>●市の平均正答率を大きく上回ったといっても、52.4%であった。文脈に合った「うすい」という言葉の意味を正しく捉えられた児童が半数程度であった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>国語辞典を用いて調べる活動をより多く取り入れ、3つの索引に慣れるようにするとともに、学校図書館司書と連携し、国語辞典を活用しやすい環境を整える。</li> <li>国語辞典で意味を調べる際には、文章の中の言葉がどの意味を表わしているのか正しく捉えられるように指導する。</li> <li>語彙力を増やすための取り組みとして、熟語リレーや1人1台端末のアプリなど児童が意欲的に楽しみながら言葉を習得する活動を工夫をする。</li> </ul>
我が国の言語文化に関する事項	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>●「漢字のへんとつくりを正しく組み合わせる」設問では、市の平均正答率を5ポイントも下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新出漢字の学習では、「へん」や「つくり」を意識し、漢字の構成についても理解できるように板書や掲示を工夫したり、デジタル教材を活用したりする。</li> <li>児童が漢字の「へん」に興味をもって学習できるように、漢字パズルや「○へんの漢字集め」など活動を工夫する。</li> </ul>
話すこと・聞くこと	<p>平均正答率は、市の平均より高い。</p> <p>○全ての設問において市の平均正答率を上回っており、特に「司会の役割を果たしながら話し合い、参加者の発言を基に、考えをまとめることができるかどうかをみる。」設問の正答率は市より4.3ポイントも上回った。「話し方・聞き方」の掲示物を随時活用したことや、スピーチやペアトークを推進した成果だと考えられる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き「話し方・聞き方」の掲示物の活用や、スピーチ、ペアトークといった活動を推進していく。</li> <li>グループや学級全体の話し合い活動も積極的に取り入れ、自分の考えを明確に伝えるポイントや司会の役割を意識できるよう指導していく。</li> </ul>
書くこと	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>●全ての設問において市の平均を10ポイント程度下回っている。特に「指定された長さで文章を書く」設問、「自分の考えを明確にして文章を書く」設問の正答率は市の平均を約17ポイントも下回った。また、記述式の解答のため、無回答率も高かった。文章や意見文を書く活動に慣れていないことが考えられる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1人1台端末に入力することはできるが、書く活動に慣れていないため、視写や単作文等の指導を取り入れ、文章の書き方を指導するとともに、正しい作文用紙の使い方についても指導する。</li> <li>指定された条件で文章を書くことに慣れていない児童が多いため、文章を書く課題を提示する際は、段落や文字数などの条件を指定し、書く練習を積み重ねられるようする。</li> </ul>
読むこと	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>○「叙述を基に、指示語の内容を捉える」設問では、市の平均を3.2ポイント上回った。文章を読む際に、指示語が何を指しているのかの確認を随時行った成果であると考えられる。</p> <p>●「叙述を基に場面の様子、段落の内容を捉える」設問の正答率は市の平均を10ポイント近く下回った。「文章を要約する」設問の正答率も低く、無回答率も高かったため、叙述から文章全体の大まかな内容を捉えることに課題が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文章の読み取りでは、その段落には何が書かれているのか、キーワードを見付け出すために線を引いたり、段落相互の関係に注意して内容を読み取ったりする時間を十分に設ける。</li> <li>読書活動を充実させるため、司書と連携して図書室の活用や読書指導を推進していく。</li> <li>文章を要約する練習を繰り返し行い、叙述から文章全体の大まかな内容を捉えられるようにする。</li> </ul>

# 宇都宮市立明保小学校 第4学年【算数】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	57.1	58.9	59.2
	図形	47.6	53.0	53.7
	測定	29.6	33.1	32.6
	データの活用	20.4	24.4	24.6
観点	知識・技能	51.3	54.3	54.7
	思考・判断・表現	36.7	38.5	38.3



## ★指導の工夫と改善

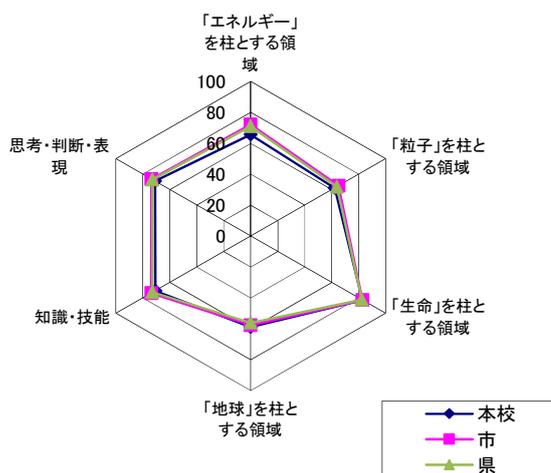
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>○3桁の加法や減法の計算など、比較的大きな数の計算がよくできている。計算ドリルや学習アプリなどを活用し、家庭でも計算練習を行う機会を増やした成果であると考えられる。</p> <p>●分数や小数の仕組みの理解や表し方に課題が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・式を言葉で説明することについて、授業内で個でじっくり考える時間を多く設け、ペアやグループで考えを共有する中で言葉にして思考を表すことで、協働的な学びの充実を図る。</li> <li>・朝の学習等で、基礎・基本の問題を繰り返し行い、確実に内容を習得させる。</li> <li>・ICTを活用して、分数や小数を数直線で表す活動を通して、数直線に対する理解が深まるようにする。</li> </ul>
図形	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>○二等辺三角形の性質を理解し、正しい図を選ぶことがよくできている。具体的な教材を用いて、二等辺三角形の形状を視覚的に捉えやすくした指導の成果であると考えられる。</p> <p>●円の性質を利用して、正三角形を作図することに課題が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタル教材や模型を活用しながら、円や三角形、四角形、球等、様々な図形を立体的・視覚的に捉え、定義を理解できるようにする。</li> <li>・コンパスを使った作図について、直径、半径、中心などの言葉を書き入れ、円や球の性質理解を図っていく。</li> <li>・コンパスや分度器などの扱い方を再度確認する。また、用具の扱いが苦手な児童は個別に支援し、正しく作図できるように指導する。</li> </ul>
測定	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>○地図から道のりを読み取り、2つの道のりの差を求めることがよくできている。</p> <p>●はかりのメモリを読み取り、重さを答えることに課題が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の日常生活と様々な単位の結びつきに気付かせ、単位への興味や仕組みの理解を深めていく。</li> <li>・授業の中で体験的な活動を実施するために教材・教具等の充実を図り、実感を伴った理解ができるよう工夫する。</li> <li>・はかりや定規を読み取る演習を繰り返し行い、1目盛りを正しく読む意識がもてるように声掛けをし、定着を図る。</li> </ul>
データの活用	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>●無回答率が市の平均よりも高く、4つから1つ選択する問題でも、無回答が多く見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題やテストにおける、時間の使い方や、すべての設問に十分な時間を割り当てるよう、授業や朝の学習での取り組み時間を効果的に設定する。</li> <li>・棒グラフの読み取りについては、グラフのもつ意味や目盛りの付け方、読み方をより丁寧に一つずつ見ること意識させることにより、その特長や使い方の理解につなげていく。</li> <li>・棒グラフの説明文の読み取りについては、文章の言葉の意味を一つずつ丁寧に読み解く練習を繰り返し行い、問題の解き方や意味の理解につなげていく。</li> </ul>

# 宇都宮市立明保小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	65.6	72.1	71.0
	「粒子」を柱とする領域	62.2	65.2	63.9
	「生命」を柱とする領域	82.7	82.8	82.4
	「地球」を柱とする領域	58.9	57.7	56.2
観点	知識・技能	70.7	73.8	72.8
	思考・判断・表現	71.0	73.7	72.8



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>○音の性質を問う設問では、音を止める方法とトライアングルのふるえについて関連付けて考えることがよくできている。</p> <p>●風が強くなるとものを動かすはたらきが大きくなることを実験の結果から読み取り、言葉を当てはめて答えることに課題が見られる。無解答率も高い。</p>	<p>・予想、実験、結果、考察という学習活動の中で、個人で考える時間を確保し、グループや全体で協議してまとめる流れを作り、理解を深めさせる。</p>
「粒子」を柱とする領域	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>○ものの形を変えても重さはかわらないことについてよく理解している。</p> <p>●同じ体積でもものの種類によって重さがちがうことについて、表と関連付けて考え言葉を当てはめて答えることに課題が見られる。</p>	<p>・予想、実験、結果、考察という学習活動の中で、個人で考える時間を確保し、グループや全体で協議してまとめる流れを作り、理解を深めさせる。</p> <p>・実験結果の表やグラフのどこから分かるのかを考えさせたり、キーワードを用いて自分の考えを書いたりすることで表現する力の育成を図る。</p>
「生命」を柱とする領域	<p>平均正答率は、市の平均とほぼ同じである。</p> <p>○植物や昆虫の体のつくりや育ち方がよく理解できている。</p> <p>●虫めがねの正しい使い方や植物の芽生えについての基礎的理解に課題が見られる。</p>	<p>・基本的な実験器具を使い方や基礎的事項の理解を深めるためAIDリルなどを繰り返し活用する。</p>
「地球」を柱とする領域	<p>平均正答率は、市の平均よりやや高い。</p> <p>○方位磁針の正しい使い方を理解している。また、影が太陽の反対側にあることを理解し、影踏み動きと結び付けて考えられている。</p> <p>●太陽が動く方位の理解に課題が見られる。</p>	<p>・家庭とも協力して、日常生活の中で太陽や月、星の動きを観察したり、確認したりすることで方位と動きを関連付け理解を深められるようにする。</p>

## 宇都宮市立明保小学校 第4学年 児童質問調査

### ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○家庭学習に関する設問では、「家で学校の宿題をしている。」において、肯定的に回答している児童は95.3%であり、宿題に取り組む習慣がしっかりと身に付いていることが伺える。家庭学習において、学習に対して自分から進んで取り組んだり、自分で計画を立てて勉強したりできるよう、家庭学習計画表「マイプラン学習」を活用し、学習意欲を高め、進んで家庭学習に取り組めるように指導していく。

○「授業の中で、目標(めあて・ねらい)がしめされている」「授業であつかうノートには、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書いている」では、いずれも肯定的回答が90%を超え、市の平均を上回っている。一人一台端末のアプリを活用した「宇都宮モデル」の実践成果が表れていると考えられる。今後は、ICTを効果的に活用しながら授業の振り返りをしっかり行うことで学びを深めるなど、確かな学力の育成を目指した授業改善に努めていく。

○「学校のきまりを守っている」の肯定的回答は100%、「学校での役わりや係の仕事にせきになをもって取り組んでいる」では96%を超え、規範意識が育っていることが伺える。今後も「毎日めざそう5つ星」を活用しながら、自分で善悪を判断したり、よいと思ったことに進んで取り組んだりできるよう高学年に向けた支援をしていく。

●「学校の授業時間以外に、ふだん(月～金曜日)、1日当たりどのくらいの時間、勉強しますか」では、30分以上が76.5%で市の平均を下回っている。「ふだん(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータ、携帯、スマートフォンを使ったゲームをふくむ)をしますか」では、3時間以上が37.6%と市の平均を上回り、ゲームの時間が長いことが伺える。ゲームや動画視聴、インターネットの時間が家庭学習の時間確保に影響を与えていることも考えられることから、時間の使い方について再度見直す機会を設けるとともに、家庭にも協力を依頼しゲームや動画視聴の時間ルールを決めてもらうことで、家庭学習の時間がしっかり確保できるよう指導していく。

●読書に関する設問では、1日当たりの読書時間は30分より少ないと回答した児童の割合は62.5%と市の平均に比べ、読書時間が少ない傾向にある。また、1か月当たりに読む本の冊数についても、1冊も読まないと回答している児童の割合が9.4%いる。読書の時間や休み時間等に、読書に親しむ様子は見られるが、文字が少ない本やキャラクターの物語が読まれている傾向にある。今後は、図書館司書との連携を図り、学年に見合った内容の本や児童が興味をもって読むことができる本を紹介するなど、より本に親しみ、読書の習慣が身に付くように指導していく。

●「むずかしい問題にであうと、よりやる気が出る」の児童の肯定割合は53%と市の平均より低い。「本やインターネットを使って勉強の情報を得ている」や「ぎ問や不思議に思うことは、分かるまで調べたい」に肯定的回答をしている児童は市の平均より高いことから、困難な課題を解決する方法を示したり、最後まで調べ解決できた喜びを味わう機会を設けたりすることで、より高い目標に対しても根気強く取り組める力を育てていく。